

台風10号はノロノロ迷走、日本各地で大きな被害。さらに記録的大雨大風竜巻、危険な暑さ、熱中症被害飛アラート、...。九月にやると猛暑日が続く、地球温暖化、これは豊かさを追いつめる私たちが人間の欲望の結果では、

読書ノート

● リネア モネの庭 クリスティーナ・ヒンツルグ文 レーナ・アンテンション 絵 福井美津子訳 世界文化社

北川村「モネの庭」のカタログショップにこの本と「リネアの12か月」が並んでいた。「2冊ともうちにある！」。絵や写真の沢山あるすてきな本。主人公の少女リネアは花かき子、草も木も好き。アパートの上の階に住むブルームさんはむかし、庭師。いまは働いてなくて植物についてなんでも知っている。二人は旅に出る。まずハルへ。マルモッタン美術館で「睡蓮」をはじめ、たくさんのモネの絵を見て、印象派の画家たちのことを読者もいっしょにたのしみ学ぶ。つぎの日、サン・ラザール駅からモネの家があるジヴエルニーへ。睡蓮の池のあるモネの庭を、わたしもリネアといっしょに歩く。そして、モネの生涯、モネの家方たち、ジヴエルニーでのくらしのようすなどを知る。晩年、ほとんど失明したときも絵は描き続けていた。手術のあとふたたび、さまざまな色を使って描かれた。悲しみ、苦痛、ように、モネとモネの家族の生き方。晩年の10年間、くる日もくる日も絵を描き続けた。そして巨大な絵、大きな円形の部屋をおおうほどの「睡蓮の間」。私も観たい。モネの絵、若いいろいろな美術館で観た。今も世界中の人の心をゆたかにしてくれよ。1926年86歳で死去。北川村のモネの庭に行けない人、行った人。この本をどうぞ。

ポーチエラカの花、赤、ピンク、黄、白、オレンジ。暑さに強い、多肉質の葉と茎。地面は、うらやましく、

香月泰男美術館 没後50年香月泰男展 第二期 1955→1965

三隅の里山風景は前



美術館に向かう。香月ロードは香月作のふしぎであもしろい人や動物たちが田んぼのあせ道で迎えてくれる。こちいい風が吹く。また来ることかできた。

美術館中庭の「サンジュアン」の木も大きくなっている。餓死寸前の収容所で食べた豆を服の衿に隠し持ち帰ったその豆の木。

けやき通信 2024.9月 No.370

一 錦織佳代子

山口美術館へ行く？

いま 香月泰男展 8月25日まで

三隅の香月美術館へもまわっ？

一泊して？

8月24、25日の予定を天気予報を見て一日早く出る。(よかった!) 猛暑の中、山口市まで、約4時間。2つの美術館は、2、3度行ったことがある。

山口県立美術館 香月泰男のシベリアシリーズ

香月泰男 山口県長門市三隅(1911~)に生まれた。(1974)現東京芸術大学を卒業後、新進画家として頭角を現わし始めた矢先、召集令状が届く。4年半に亘る太平洋戦争従軍とシベリア抑留。復員後、その過酷な体験を油彩画に。それらは「シベリアシリーズ」と呼ばれる。没後50年を記念して代表作シベリアシリーズ全57点の展覧会。

マイナス30度の凍てつく寒さと飢えのシベリア収容所。有刺鉄線、鉄格子の貨車、死体の山、黒い色で描かれた画面。作品に寄せられた画家自筆の説明文が添えられ、それを読みながら、ゆっくり静かに進んでいく。今の高校生たち、クラスのみんなで観に来てほしい。と思った。

猛暑の中、帰りは6時間、私のひびも痛い。でもとてもよい旅でした。日本海の青、赤、茶色の石州瓦の家々、昭和の町並...

旅は人のための。カーナビの車はもつけない。GORAは用意した資料も家に忘れた。おかげで。いろいろな人に道をたづね、ホテルの電話をさかしてもらう。おいしい。美術館めぐり。すてきなすね。島根県益田市 Café 栗栗。センスあるインテリア。お茶とコーヒー。自家焙煎。上手い説明人。郵便配達。お兄さん笑顔!



GORAさんスマホなし。私、そんな、少しメール、ケータイ。くらいしか使えない。